

2026年2月27日

# 小山田小

町田市立小山田小学校  
校長 悴田 隆良  
令和7年度学校だより 第11号

<http://www.machida-ky.jp/e-oyamada/>

## 次につなげること

校長 悴田 隆良

3月に入ります。年度末となり、子供たちは今の学年で習得しなければならない学習内容やふさわしい生活態度にあらためて向き合って過ごしています。

さて先日まで、ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開催されていました。私もリアルタイムの中継やニュース番組を通して、選手たちの活躍に一喜一憂していました。そこにはたくさんの感動的な場面がありましたが、私はオリンピックをはじめとするスポーツの大会を通して毎回感じるがあります。それは、「目標を明確に掲げて努力すること」そして「その目標をつかみ取ることを最後まであきらめない気持ち」です。今回のオリンピックでも、これらのことを強く感じました。さらに今回は「一緒に競い合った仲間をたたえる気持ち」と「その気持ちを表現する力」をたくさんの選手の姿から教えてもらいました。

もう一つ、心が動かされたことがあります。それは、選手とともに歩んできたコーチやこの大会で選手生活を終える選手の言葉です。ある競技の選手は目標としていたメダルには届かず、結果的に銀メダルになりました。その時にコーチが選手に伝えたのは「あなたは銀メダルを取った。今度はあなたが金メダルを取れる選手を育てなさい。」という趣旨の言葉だったそうです。二人の間には言葉以上に私たちが想像できないお互いの思いや絆があるのだと思いますが、私は単純に胸が熱くなりました。

このほかにも、次の世代につなぐ姿や言葉がたくさんありました。よく「次にバトンをわたす」とか「今度はあなたの番だ」とかと言われます。その気持ちを言葉だけでなく、その時まで努力してきた姿や積み上げてきた成果を後に続く人たちが受け止めた上で次を託すことが大きな進歩や発展につながる最良の形だと思います。

学校において3月はお別れの月でもあります。6年生は中学校という次のステージを見据えながら、小学校を下学年に託して卒業していきます。5年生は最高学年になる期待と不安に包まれます。6年生が残りわずかな小学校生活を楽しまつつ、自分たちのあしあとを示してくれたらうれしいです。それを5年生から1年生までの子供たちが感じとって、4月からの学校生活を営んでいく…この繰り返しが小山田小学校の伝統を守ることであり、新しく進化していく力を生み出す源になると考えます。